

令和1年度事業報告について

■公益目的事業

◆助成顕彰事業（第26回）

「創造する伝統賞」の主催（定款第4条第1項第2項）

令和1年度助成顕彰事業として「創造する伝統賞」募集を行い、令和1年8月26日に選考委員会を開催。令和1年9月19日の理事会の審議を経て2名に授与した。

「第11回創造する伝統賞」 賞金各100万円

- 青木涼子（あおきりょうこ） 42歳 能声楽家
- 田辺竹雲斎（たなべちくうんさい） 46歳 竹芸作家

1. 対象

日本の伝統文化及び現代芸術の広い分野を対象とする。国籍不問。

2. 募集応募概況

発 送 先：美術館・博物館・新聞社・雑誌・大学・財団役員他関係者・文化藝術の会会員
歴代助成顕彰関係者・歴代奨学生・評論家・画廊・資料請求者 ほか

発 送 数：1,434通

告 知：当財団WEBサイト（ホームページ、facebook、twitter）、会報、邦楽ジャーナル、美術の窓ほか

応募総数：62件（一般公募48件、推薦応募14件）

3. 選考委員会

開催日時：令和1年8月26日 14:00～15:30

開催場所：公益財団法人日本文化芸術財団 会議室

出席者：金子賢治委員長、尼崎博正委員、倉方俊輔委員、原田大三郎委員、
古山正雄委員、茂手木潔子委員、山下裕二委員

役員：北村誠副理事長（オブザーバー）

事務局：事務局員2名

選考方法：事前に選考委員に全応募者の資料を送付、映像等資料をWEBで共有し、閲覧を依頼。選考委員会当日、選考委員は会議開始前に応募者から提出されたポートフォリオ、書籍等の資料を閲覧したのち、事前審査による候補者を各委員が発表し、応募者から提出されたDVD、CD、ポートフォリオ等を視聴及び回覧した。もっとも多く票数の集まった応募者について審議し、1名の授賞候補者を選出した。次に票数の多かった応募者について、各委員が意見を述べ、資料を閲覧した上で再審議し、満場一致で授賞候補者1名を選出した。

4. 理事会の決議

令和1年9月19日の理事会で審議を経て、選考委員会より選出された2名への「創造する伝統賞」授与を決議した。

5. 授与式典の開催

開催日時：令和2年2月14日（金） 16:30～19:30

開催場所：明治記念館（曙の間）

出席者：[授賞者] 青木涼子、田辺竹雲斎

[助成顕彰選考委員] 金子賢治委員長、古山正雄委員、茂手木潔子委員

[奨学金選考委員] 寺脇研委員長、木村博昭委員、近藤健一委員、椿昇委員、
成田宏紀委員、原高史委員

[専門委員] 葛西聖司委員、唐澤昌宏委員、中村真規委員、村山明委員

[役員] 徳山豊理事長、北村誠副理事長、大野木啓人常務理事、
橘市郎理事、津田恵子理事、吉木稔朗理事、
根岸吉太郎評議員、野呂芙美子評議員、脇田直枝評議員、
渋谷佳樹監事、志村文衛監事

[来賓] 文化庁 坪田知広参事官

内容：理事長挨拶、来賓御祝辞、創造する伝統賞選考評、賞状・賞金目録の授与、日本文化藝術奨学生選考評、奨学金証書・目録の授与、奨学生活動紹介、授賞者活動紹介、祝宴、授賞者活動展示、奨学生活動展示

6. 賞金の授与

令和2年2月 本人名義の口座に振込にて授与

7. 授賞者の紹介

リリースの発行（関係各所への発送および当財団 WEB サイトで公開）

授賞者紹介の小冊子を作成し授賞式で配付、その他関係者へ送付

◆育英事業

芸術系大学等に在学する学生及びその他の学生に対する奨学金の給付（定款 第4条 第3項）

(1) 日本文化藝術奨学生

令和1年度育英事業として「日本文化藝術奨学生」の募集を行い、令和1年8月9日に選考委員会を開催。令和1年9月19日の理事会の審議を経て、6名を奨学生として決定した。

日本文化藝術奨学生 各50万円

- 勝川夏樹 東京藝術大学大学院 美術研究科 美術専攻 ガラス造形研究室
博士課程3年（27歳）
- 高資婷 京都造形芸術大学大学院 芸術研究科 芸術専攻 日本画
修士課程1年（26歳）
- 中あやの 東北芸術工科大学大学院 芸術工学研究科 芸術文化専攻 洋画領域
修士課程1年（22歳）
- スクリップかり落合安奈 東京藝術大学大学院 美術研究科 美術専攻 彫刻領域
博士課程1年（26歳）
- 澤崎賢一 京都市立芸術大学大学院 美術研究科 構想設計専攻
博士課程2年（40歳）
- 中島由起子 金沢美術工芸大学大学院 美術工芸研究科 芸術学専攻 東洋美術史
修士課程1年（28歳）

1. 対象者

次の条件を充たし、文化・芸術の分野で将来にわたり活動が期待され、才能・可能性が認められる者

- (1)国内の芸術系大学の大学院に就学しており、かつ次年度在籍予定者であること
(2)学業成績、生活態度共に優秀で、健康な学生であること
※ 対象の大学は、国内の芸術系の大学・大学院で実技部門を設けている大学とする。
ただし別途定める指定校は対象とする。

2. 募集応募概況

募 集：大学院生 6名 奨学金 1年間 50万円の給付

募集期間：令和1年6月1日から令和1年6月11日（当日消印有効）

申請書類：①奨学生願書 ②推薦書 ③成績証明書 ④在学証明書

応募状況：49名（うち選考対象外2名、辞退1名）

- ・ 前年と比べ、応募総数が減少した。（-7件）
- ・ 年々東京藝術大学からの応募者の割合が高くなっていった（前年度は応募の約45%）が、今年度は若干減少し、35%（-18件）となった。
- ・ 金沢美術工芸大学、東北芸術工科大学からの応募が増加した。（金沢+5件、東北+4件）

3. 選考委員会

開催日時：令和1年8月9日（金） 16：30～18：00

開催場所：公益財団法人日本文化芸術財団 会議室

出席者：寺脇研委員長、木村博昭委員、椿昇委員、成田宏紀委員、原高史委員

書面出席：近藤健一委員

役員：北村誠副理事長（オブザーバー）

事務局：事務局員2名

○選考資料

- ・ 日本文化芸術奨学生 学校別応募人数
- ・ 日本文化芸術奨学生 学校別過去の受給者数
- ・ 日本文化芸術奨学生 受給者詳細リスト ※事前送付
- ・ 応募者資料（応募書類一式） ※事前送付
- ・ 応募者資料（ポートフォリオ等参考資料）

○選考方法

- ・ 事前に選考委員に全応募者の資料を送付、映像資料等をWEBで共有し、閲覧を依頼。
- ・ 選考委員会当日、会議開始前にそれぞれポートフォリオを閲覧し、候補者を選出。
- ・ 事前審査による候補者を各委員発表し、応募者から提出されたポートフォリオ、DVD等参考資料を視聴・回覧した。
- ・ もっとも票数の多かった候補者について審議し、1名を選出した。
- ・ 次に票が多かった候補者のうち、類似分野の候補者を比較し、各委員が意見を述べた上で審議し、3名を選出した。
- ・ すでに選出された4名以外で票の集まった候補者について、票を入れた委員が意見を述べ、再度資料を確認し、満場一致で2名を選出した。

4. 理事会の決議

令和1年9月19日の理事会で審議を経て、選考委員会より選出された6名に奨学金授与を決議した。

5. 授与式典の開催

開催日時：令和2年2月14日（金） 16：30～19：30

開催場所：明治記念館（曙の間）

出席者：[奨学生] 勝川夏樹、高資婷、スクリプカリウ落合安奈、中あやの、澤崎賢一、中島由起子
 [助成顕彰選考委員] 金子賢治委員長、古山正雄委員、茂手木潔子委員
 [奨学金選考委員] 寺脇研委員長、木村博昭委員、近藤健一委員、椿昇委員、成田宏紀委員、原高史委員
 [専門委員] 葛西聖司委員、唐澤昌宏委員、中村真規委員、村山明委員
 [役員] 徳山豊理事長、北村誠副理事長、大野木啓人常務理事、橘市郎理事、津田恵子理事、吉木稔朗理事、根岸吉太郎評議員、野呂英美子評議員、脇田直枝評議員、渋谷佳樹監事、志村文衛監事
 [来賓] 文化庁 坪田知広参事官
 内容：理事長挨拶、来賓御祝辞、創造する伝統賞選考評、賞状・賞金目録の授与、日本文化藝術奨学生選考評、奨学金証書・目録の授与、奨学生活動紹介、授賞者活動紹介、祝宴、授賞者活動展示、奨学生活動展示

6. 奨学金給付

令和2年2月 前期分として給付金の半額を本人名義口座に振込にて給付
 令和2年7月 後期分として給付金の残金を本人名義口座に振込にて給付

(2) 加藤定奨学金

令和1年度育英事業として「加藤定奨学金」の募集を行い、令和1年8月9日に選考委員会を開催。令和1年9月19日の理事会の審議を経て、7名を奨学生として決定した。

▶ 京都・奨学金給付大学生 2名

- 森永彩花 京都精華大学 デザイン学部 イラスト学科 イラストコース
3年 (21歳)
- 濱井晴海 京都美術工芸大学 工芸学部 伝統工芸学科 総合デザインコース
3年 (20歳)

▶ 全国・奨学金給付大学生 5名

- 砂永サミー 横浜美術大学 美術学部 美術・デザイン学科 テキスタイルデザイン
3年 (20歳)
- 笹谷双葉 東北芸術工科大学 芸術学部 美術学科 洋画コース
3年 (21歳)
- 森賀奈子 多摩芸術大学 美術学部 絵画学科 日本画専攻
2年 (23歳)
- 河野詩音 女子美術大学 芸術学部 アート・デザイン表現学科 ヒーリング表現領域
3年 (21歳)
- 中浦情 東京造形大学 造形学部 美術学科 絵画専攻領域
3年 (20歳)

1. 対象者

次の条件を充たす者

- (1) 国内の芸術系大学の2年生及び3年生に就学し、かつ次年度在籍予定者であること
- (2) 学業優秀、品行方正でありながら経済的事由によって就学に支障をきたしている学生であること

※ 対象の大学は、国内の芸術系の大学・大学院で実技部門を設けている大学とする。

2. 募集応募概況

募 集： 大学生 7 名 奨学金 1 年間 30 万円の給付

募集期間： 令和 1 年 6 月 1 日から令和 1 年 6 月 11 日（当日消印有効）

申請書類： ①奨学生願書 ②推薦書 ④成績証明書 ⑤在学証明書 ⑥所得証明書類

応募状況： 応募総数 16 名（全国 12 名、京都 4 名）

- ・ 昨年に比べ、応募総数の変動はないが、全国が増加、京都は減少した。（全国+1、京都-1）
- ・ 京都は採用数と同数件（2 校）の応募にとどまった。

3. 選考委員会

開催日時： 令和 1 年 8 月 9 日（金） 16：30～18：00

開催場所： 公益財団法人日本文化藝術財団 会議室

出席者： 寺脇研委員長、木村博昭委員、椿昇委員、成田宏紀委員、原高史委員

書面出席： 近藤健一委員

役員： 北村誠副理事長（オブザーバー）

事務局： 事務局員 2 名

○選考資料

- ・ 加藤定奨学金 学校別応募人数・受給者数
- ・ 応募者資料（応募書類一式） ※事前送付
- ・ 困窮度順リスト ※事前送付

○選考方法

- ・ 事前に選考委員に全応募者の資料（提出された所得証明書や応募書類より[認定所得額]（日本学生支援機構奨学金の控除額の算出方法を参考にした計算式で算出したポイント）を算出したものを含む）を送付し、閲覧を依頼。
- ・ 選考委員会当日、困窮度の高い順に出席委員全員で詳細確認をし、意見交換を行った。

【全国】

- ・ 困窮度上位者から順に、ポイントに反映されていない状況等を確認し、満場一致で困窮度が高い順に 2 名を候補者として選出した。
- ・ 困窮度第 3 位以下の応募者について再度応募資料を確認し、他の貸付金額、次年度に見込まれる困窮状況を考慮し、2 名を候補者として選出した。
- ・ 残る困窮度第 3 位以下の応募者のうち、出願事由、学習意欲、ポイントに反映されていない困窮に関わる状況などから、総合的に判断し、1 名を候補者として選出した。

【京都】

- ・ 寺脇委員長から、応募者数が採用数と同数であり、うち 1 名については困窮度が低いため、より困窮度の高い全国の応募者に 1 枠を移行することが提案された。
- ・ 全委員が全国 5 名、京都 2 名を選出し、理事会に提案することに同意した。
- ・ 困窮度上位者から順に、ポイントに反映されていない状況等を確認し、満場一致で 2 名を候補者として選出した。
- ・ 全国・京都の奨学生数の変更ができない場合には、全国枠で最後に選出した 1 名を落選とし、京都の残る 1 名を補欠候補とすることを確認した。

4. 理事会の決議

令和 1 年 9 月 19 日の理事会で審議を経て、選考委員会より選出された 7 名に奨学金授与を決議した。

5. 奨学金給付

令和2年2月 前期分として給付金の半額を本人名義口座に振込にて給付

令和2年7月 後期分として給付金の残金を本人名義口座に振込にて給付

◆文化芸術普及活動事業

自主企画公演、展示・体験活動・セミナー・映画上映・演奏会等の文化祭の開催、ホームページでの情報発信、及び実施事業の記録（定款第4条第4項第5項第6項）

1. 「創造する伝統 杜の中の文化祭」

当財団の基本理念である「創造する伝統」を体現する実技者（これまでの助成顕彰授賞者）を中心とした催しを開催。杜の自然を感じながら文化・芸術に触れることができる。それぞれがこの体験を通して、文化・芸術への興味を深め、親しむことを目的とする。

① Cross the Arts and Culture

日 時： 令和1年7月23日（火）

会 場： 明治神宮 参集殿

特別協力： 明治神宮

協 賛： 株式会社クサカベ

後 援： 京都造形芸術大学 東北芸術工科大学

来場者数： 186名

内 容： さまざまな分野の文化芸術を体験するシリーズ企画。今回は、平成29年度の授賞者である若獅子会の受賞後の活動報告の場として、演奏会を開催。過去の日本文化芸術奨学生である松井えり菜とのコラボレーション、ワークショップなど、子供から大人まで楽しめるプログラムを実施した。

実施概要： (1) お囃子 LIVE!!@若獅子会

14:30 開場・ワークショップ

15:00 開演

参加費： 一般2,000円／会員500円／高校生以下 無料

出演： 若獅子会／邦楽囃子、第9回創造する伝統賞授賞者

総合監修： 大野木啓人／空間演出家、日本文化芸術財団常務理事

音楽監修： 茂手木潔子／日本音楽研究、第2回日本伝統文化奨励賞授賞者

プログラム： ・ワークショップ

邦楽囃子、陰囃子で使用する楽器を体験

・三番叟（演奏鑑賞）

・お囃子の楽器のおはなし（解説）

・鷹と獅子（演奏鑑賞）

・獅子舞（演奏鑑賞）

・音で見せる～陰囃子のおはなし（解説）

・紙芝居「桃太郎」（鑑賞）

松井えり菜作画の紙芝居を若獅子会による演奏で上演

・若獅子 I（演奏鑑賞）

(2) KAMISHI by 松井えり菜

参加費： お囃子 LIVE!!@若獅子会の入場券で鑑賞可

内 容： 松井えり菜作画の紙芝居「桃太郎」の原画を展示

② 中今茶会

- 日 時： 令和1年11月9日（土）・10日（日）
会 場： 明治神宮 隔雲亭
特別協力： 明治神宮
協 力： 小川流煎茶、MISA SHIN GALLERY
後 援： 京都造形芸術大学 東北芸術工科大学
参加費： 茶席 一般2,000円/会員500円（事前申込制）
観覧のみ 一般1,000円/会員無料
内 容： 明治神宮内の茶室「隔雲亭」を会場とした茶会。第9回創造する伝統賞授賞者である名倉達了氏（視刻・彫刻家）、篠田太郎氏（美術家）の作品を随所に配置した。
来場者数： のべ129名

2. インタビューコラム「創造する伝統をひもとく」

- 開始日： 令和1年5月31日より連載（無料公開／全11回）
更 新： 毎月1回（月末更新）
U R L： <https://blog.canpan.info/jpartsfdn/>
内 容： これまでに日本文化芸術財団に関わった様々な分野の専門家を招聘し、「創造する伝統」とはなにかをインタビュー形式で問いかける。
実施概要： ○ゲスト：芳賀徹（日本文化芸術財団顧問／東京大学名誉教授）
第1回 伝統とは、アイデンティティと強く結びついた歴史
(5/31) 感性を光らせて新しい滴りが生み出されたとき「創造する伝統」となる
第2回 「創造する伝統」は知の蓄積と新しいものへの想像力
(6/30) 学びを深めてこそ手にできる意外な新展開に期待
○ゲスト：金子賢治（日本文化芸術財団専門委員／茨城県陶芸美術館館長）
第3回 時代のうねりの中で進化し続ける工芸の技術
(7/31) “日本文化の再構築”から生まれた「伝統」そして「創造」とは
第4回 徹底的な伝統の継承なくして花咲く創造はない
(8/31) 想像力豊かにプロセスや精神までさかのぼって見るのが肝要
第5回 作家は「鑑賞」から「創造」に視点を移すこと
(9/31) 自分の中の伝統性を見つめ、プロセスの中で創造と伝統を融合させる
○ゲスト：茂手木潔子（日本文化芸術財団専門委員／聖徳大学教授）
第6回 伝統とは、現代においてもエネルギーを持ち続けるもの
(10/31) 日本の伝統文化における音楽の原点は暮らしの響き
第7回 楽器を通じて表現される音作りの考え方こそ大事にしたい
(11/30) 生きるための唄が伝えるダイナミックな伝統のかたち
第8回 “あるがまま”を大事にする音楽
(12/31) “めいめい”という感覚こそ日本文化の根底にあるもの
○ゲスト：倉方俊輔（日本文化芸術財団専門委員／大阪市立大学准教授）
第9回 伝統とは、アイデンティティと強く結びついた歴史
(1/31) 建築家は、伝統に新たな衣をまとわせるアーティスト
「創造する伝統」ではない建築はない

第 10 回 真に創造的なものは世紀をまたいでも滅びない
(2/29) いきいきとした姿で輝き続けるものが創造を呼ぶ

第 11 回 多様なものが熟成する日本には伝統が芽吹いている
(3/31) チャンスを増やして可能性を高めてこそ花開く

3. その他

- WEB での告知、情報公開
 - ホームページ <http://jp-artsfdn.org/>
 - facebook <https://www.facebook.com/jparts.fdn>
 - twitter <https://twitter.com/jpartsfdn>
- ・ 主催イベント等の告知、申込受付
- ・ 「創造する伝統賞」および奨学金の募集告知、資料請求受付
- ・ 文化藝術の会入会案内、受付
- ・ これまでの助成顕彰事業授賞者、育英事業奨学生の最新の活動情報を発信
- 賛助会員システム（WEB 管理システム）の運用
- 文化藝術の会会報発行（4 回）